



# なきごえ



1994

12





(撮影：小林 崇弘)

- 2 — New Face グラントシマウマの赤ちゃん誕生 (小林崇弘)
- 3 — 動物と私 トラの話 (岡崎 立)  
カバーウォッチング コンドル (野口秀高)
- 4 — 身近な夜行性動物④ イタチ (渡辺茂樹)
- 6 — コアラの体重測定 (野口秀高)
- 8 — グラフZOO 秋の動物と花のフェスティバル (編集部)
- 10 — 動物なんでも相談室 (森本委利)
- 11 — ZOO DIARY

**カバーウォッチング**

コンドル

タカ目 コンドル科

*Vultur gryphus*

飛ぶことのできる鳥では最大で、翼を広げると3.2mにもなります。南アメリカの山岳地帯に生息し、繁殖期以外は小さな群をつくります。死んだ動物の腐肉を主に食べています。

(撮影：野口 秀高)

1994年目次

なきこえ352号付録

通巻341~352号 第30巻

1~12は発行月

表紙

撮影者名

1 チュウゴクオオカミ	竹田 正人	7 パーバリシープ	堀内 智生
2 ベニイロフラミンゴ	堀内 智生	8 マナヅル	堀内 智生
3 ヒクイドリ	村上 勇一	9 ツノウズラ	中川 哲男
4 フクロウ	長瀬健二郎	10 フタコブラクダ	長瀬健二郎
5 オジロワシ	西田 俊広	11 サシバ	堀内 智生
6 カナダヅル	吉本 昌俊	12 コンドル	野口 秀高

動物と私

執筆者名

1 友田規隆	(社)兵庫県自然保護協会	7 清水慶子	京都大学霊長類研究所
2 南 正人	星野温泉リゾート野鳥研究室	8 根本 進	漫画家
3 丸谷 聡	日本野鳥の会	9 榎 泰義	奈良県立医科大学 教授
4 長野義春	総合環境研究所	10 工藤直子	詩人、童話作家
5 池谷奉文	日本生態系保護協会会長	11 田辺俊夫	イラストレーター
6 佐藤良彦	獣医師	12 岡崎 立	イラストレーター

New Face

撮影者名

1 アムールトラの赤ちゃんお目見え	村上 勇一	7 今年もコウノトリが繁殖	吉本 昌俊
2 アメリカチョウゲン科のお目見え	中川 哲男	8 コアラが入園しました	長瀬健二郎
3 ホッキョクグマの赤ちゃん誕生	宮下 実	9 カナダヅルのヒナ誕生	中川 哲男
4 ヒツジの赤ちゃん	土谷 正道	10 アミメキリンの赤ちゃん誕生	宮下 実
5 ルリオタイヨウチョウお目見え	前田 茂	11 フランソワルトンの赤ちゃん誕生	竹田 正人
6 パーバリシープのふた子赤ちゃん	大野 尊信	12 グラントシマウマの赤ちゃん誕生	小林 崇弘

グラフZOO

撮影者名

1 イヌ科の動物たち	竹田 正人	7 タンチョウの子育て	森本 委利
2 冬はカモたちの季節	土谷 正道	8 コアラのムコ入り	大野 尊信
3 サルの仲間たち	吉本 昌俊	9 とりどりの足	中川 哲男
4 今年生まれの赤ちゃんpart.1	竹田 正人	10 サマースクールの子供たち	中上 正幸
5 ホッキョクグマ一家の1日	永田 健一	11 中国の動物園さまざま	吉本 昌俊
6 コウノトリの仲間たち	編集部	12 秋の動物と花のフェスティバル	編集部



特別寄稿

執筆者名

1 最古の家畜 -イヌの起原-	平岩由伎子	平岩犬科生態研究所
2 鳥たちの“利己的”社会	上田 恵介	立教大学 助教授
3 動物生態学者の見た動物園のあり方	三谷 雅純	兵庫県立人と自然の博物館 生物研究部
4 東京の自然と自然紹介人たち②	木内 正敏	(株)自然教育研究センター
5 行徳野鳥観察舎から	蓮尾 純子	千葉県行徳野鳥観察舎
6 奄美大島の自然	前田 芳之	奄美の自然を考える会 理事
7 小笠原の歴史とアオウミガメ	菅沼 弘行	小笠原海洋センター 副館長
8 アフリカで考えたこと	本間 令香	大阪動物園ボランティアズ 会員
9 「身近な夜行性動物」①ネズミ類	恩地 実	甲南高校 教諭
10 「身近な夜行性動物」②タヌキ	和泉 剛	
11 「身近な夜行性動物」④コウモリ	前田喜四雄	奈良教育大学 自然教育環境センター
12 「身近な夜行性動物」③イタチ	渡辺 茂樹	

連載

執筆者名

キーパーズアイ		獣医室から	
3 弱肉強食の世界はどこへ行った 変ななまえ~!	早川 篤	2 61 白内障が治ったぞ!	宮下 実
8 驚かせてゴメンナサイ クサーイって言わないで	早川 篤	6 62 動物たちの繁殖	竹田 正人
		11 63 ゴリラの健康診断	宮下 実
ケンちゃんの好きやねん動物園		動物なんでも相談室	
5 ホッキョクグマの赤ちゃん	松葉 健	1 トラやシマウマ縞模様がある理由	中川 哲男
10 爬虫類の仮り住まい	松葉 健	ペンギンの潜水能力	中川 哲男
		7 キーウィの名前の由来	宮下 実
公園・花だより		キーウィとキウイフルーツとの関係	
4 沈床花壇植付けと管理	仁田原 洋	12 ゾウのキバの有無	森本 委利
9 天王寺公園あれこれ	仁田原 洋	キリンの反芻	

飼育観察記事

執筆者名

1 オオカミの飼育	西川 徹二
6 ホッキョクグマの繁殖	大東 孝司
7 飼育下の動物行動調査とその解析Ⅲ ニホンザルの配偶関係を調べる	大野 尊信、早川 篤
8 鳥の楽園 (バードケージ) における過去7年間の繁殖成績	村上 勇一
9 クロサイの繁殖	葭谷 文彦、仲谷 登
11 アカゲラの食性について	藤井 秀樹
12 コアラの体重測定	野口 秀高

紀行・記録・その他

2 浪速で開催された第6回種保存委員会拡大会議	宮下 実
3 近交係数からみた日本のカバ	中山良三郎
4 退職にあたって	南野 良春、坂上 亘
5 インド訪問記	宮下 実
10 第20回サマースクールを終えて	浅野 美信、佐々木清司、広川 由美

ZOO DIARY

竹田 正人

||||| 動物と私 |||||

トラの話



岡崎 立さん  
(イラストレーター)

今から20年以上も前のこと、赤道直下の国に暮らしていたことがあります。その土地では動物園や図鑑でしかおめにかかれないような珍しい動物に会いました。ちよつと散歩に出るとヤシの林をサルが群れが渡っていましたし、海で泳いでいる時ジユゴンが浮かんでいるのも目撃したこともありました。

ゾウやニシキヘビもいたりするこの地方でも恐ろしい動物はなんといってもトラでしょう。山のコーヒー園で働く人達は日がくるとトラをこわがって小屋の扉を厳重に閉めて決して外に出ようとしませんでした。平地でも夜中にドリアンの実をひろいに行ったら根元にトラがうずくまっていたとか、道路に飛びだしたトラにぶつかりそうになったバスの運転手の話とか、コーヒー屋台の石油ランプの下で延々とおしゃべりが盛り上がるのでした。

実際に私の知っている人がタバコを買いに行く途中でこの黄黒大将にばったり出くわしたことがあったそうです。運よくその時はトラの方も驚いて先に逃げ出してくれたそうです。この人は私の雇い主が経営していた農場の人で、その農場では

荒れ地を切り開いて畑をつくっていました。最初の年はまあまあ収穫量だったけれど、次の年には害虫が大発生し、これはいけないと農薬をまいたらその次の年には虫の代わりにサルやイノシシが作物を目当てに群れで現われたそうです。さらにそれを追ってトラも出没するという始末。「生態系に人間が干渉すると様々な事態が発生いたします。」と今だったら誰だつて解説してしましますが、その当時はむしろ自然のしつぺ返しという言葉のほうがつくりきました。結局は同じことなんです。

その時代はまだトラは絶滅寸前の貴重な動物というよりは危険な害獣であるという考えの方がずっと強く、木の上で一晩中鉄砲を構えてトラ退治を企てるという勇ましい話も耳にしました。でも頭の中で考えるのと現実とは大違いでうまく仕止めたという話は一度も聞きませんでした。鼻をつままれてもわからないような闇の中で、それも不安定な枝の上で何時間も緊張しっぱなしの人には夜明けの光がさぞかし待ち遠しかったでしょう。

それでも町の剥製屋さんに時々トラの死体が持ちこまれていたようでしたから、中には運の悪いトラもいたのでしょうか。それともよほど悪賢い人間がいたのでしょうか。なにしろどんな猛獣よりもヒトの方がたちが悪いという評判ですから。

結局その土地にいる間、一度も野生のトラと野外で対面する機会はありませんでした。ちよつぱり残念な気もしますが、動物園のオリの向こう側のトラを見たりするとこんなおつかない動物に会わなくてよかったとも思います。

(おかざき りゅう)

グラントシマウマの赤ちゃん誕生

10月3日にグラントシマウマの赤ちゃんが生まれました。まだしま模様は黒くなく茶色をしています。元気に走りまわっています。





日本にイタチは何種いると思いますか？ ニホンイタチ、シベリアイタチ、オコジョ、イイズナ、ミンクの5種です。これはイタチの定義をイタチ属に限った場合であり、もしイタチ科まで広げれば、ニホンテン、クロテン、ユーラシアアナグマ、ニホンカワウソも含まれ、計9種に達します。イヌ科とネコ科はいずれも2種ですから、イタチのなまがいか繁栄しているかわかるでしょう。もっともテンやカワウソまでイタチに含めるのはやや風呂敷を広げすぎかもしれません。ここではとりあえずイタチ属をイタチであるとし、その中でも大阪府に分布する2種、シベリアイタチとニホンイタチについて話を進めます。

シベリアイタチは日本に昔からいたイタチではありません。北海道のミンクと同様に、20世紀になってから人間によって移入されたものが逃亡し、野生化したものです。ミンクが北海道でいま最も簡単に観察できるイタチになっているのと同様に、大阪の市民が「イタチを見た」と言えばほとんどこのシベリアイタチと考えて差し支えないでしょう。世間ではチョウセンイタチという名称の方が通りがよいですが、この名称は亜種名です。亜種というのは定義があいまいであり、また誤解のもとなので（たとえば北海道のキツネが本州のキツネとは種が違うように思われがちのように）、みだりに使うべきではないと私は考えます。

チョウセンイタチの亜種登録は20世紀初めに行われたものですが、その根拠となった「他地域のシベリアイタチとは違って顔面の黒色が頭頂部まで伸びていない」は、私の知る限り全くあてになりません。例外が多いからです。また、中国産の亜種マンシュウイタチやキタシナイイタチにも、この特徴があてはまる場合があります。亜種名称を一切使うべきではないとまでは言いませんが、従来のそれはあまりにもいい加減です。全身が真黒で、一見したところとてもシベリアイタチの亜種とは思えないタイワンイタチも含め、DNA分析等の新技術を駆使した再検討が必要でしょう。

まあそれはさておき、日本に「帰化」したシベリアイタチのことですが、その由来は昭和初期の関西と昭

和20年代の北九州の二波であり、その後分布を広げて現在に至っています。現在は中国地方や四国、ならびに九州中部にも定着し、殊に京阪神の都市域はほとんどこのイタチにおおいつくされています。だがだからといって、一部の研究者が言うように、「シベリアイタチがニホンイタチを駆逐した」とはならないでしょう。都市からニホンイタチを追ったのはシベリアイタチではなくて人間、と考えるのが常道ではないでしょうか？

都市には確かにニホンイタチはいませんが、少し山に入れようじゃうじゃいます。少なくとも関西ではそうですし、岡山、高知、鹿児島島の短期間の調査でも同じような感触が得られました。もしシベリアイタチがニホンイタチを駆逐したのならば、山の中に追いかけて行ってもよいはずですが、帰化シベリアイタチの母国である韓国では、釜山やソウルの繁華街にイタチが出没することはありません。また、シベリアイタチが分布しない（なぜか箱根の坂を越えられない）東京や横浜の繁華街には、ニホンイタチは住んでいません。おそらくどちらのイタチも、「街」は嫌いなのでしょう。そして先住のニホンイタチとの競争に負けたシベリアイタチは、ニホンイタチが撤退してできた空地＝都市にやむなく住みこんだのではないのでしょうか？ もっとも北九州ではかなり山奥までシベリアイタチが入りこんでいるという情報もあり、一律には断定できません。

山奥には入っていない関西のシベリアイタチは、京阪神においてカラスも真っ青になるほどに都市動物化しています。たとえばJR京都駅南や四条河原町、大阪城近くのオフィス街や心齋橋、あるいは天王寺区や阿倍野区の住宅街で生息が確認さ



水を飲みに来たシベリアイタチ (撮影：小島一介)

れています。スーパーに侵入してハムやソーセージを盗んだり、台所の煮魚を失敬したりすることもしばしばですが、主食はやはりネズミ（主にドブネズミ）のようで、天井裏で発見されるため糞にはその毛がびっしりと詰め込まれています。天井裏は同時に営巣の場所です。イタチは体が細いので僅かな隙間から出入りできますが、イタチの外敵であるネコは入れません。また人間も、大工を呼んで板をめくらねばその中を見ることができないことが多いです。また、巣を繁殖に使うためには産座となる枯草等が必要ですが、天井裏にはグラスウールの断熱材という格好の代用品があります。というわけで、ニホンイタチが嫌って空

た都会は意外に住めば何とやらであり、初めはやむなく住みこんだシベリアイタチにとって思わぬ拾い物であったようにも思えます。残りの問題は人間との摩擦だけです。

ニホンイタチはシベリアイタチに比べて体がひとまわり小さく、殊にメスは幼獣と見まがうばかりの小ささです。最大でも体重200g以下、小さいものは100gを切ります。オスは500gを超えるのが普通ですから、その性差はかなりのものです。一方、シベリアイタチのメスは体重300g前後、オスは1kgを超える場合もありますが普通は600g前後であり、性差はニホンイタチほどではありません。



前列左からニホンイタチ：オス、ニホンイタチ：メス、シベリアイタチ：幼獣、後列左からシベリアイタチ：オス、シベリアイタチ：メス (農水省森林総研関西支所蔵標本)

せん。このように異なる2種のイタチですが、オスはそれぞれの最小値と最大値が重なるので、にわかには判定し難い場合もあります。毛色はどちらかといえばニホンイタチの方が濃色ですが、やはり判定が難しい場合があります。おそらく最もわかりやすい判定の基準は尾の長さでしょう。ニホンイタチのそれは頭胴長の半分を超えることはありませんが、シベリアイタチでは、幼獣を除くと半分を超えます。このように外見はけっこうまざらわしいニホンイタチとシベリアイタチですが、遺伝的な距離は意外に遠いという研究があります。遺伝的な近さのわりにはかたちが異なる人間と類人猿の関係の逆です。

さて山を好んで住むニホンイタチですが、人跡稀な奥山にもいるにはいるけれど、どちらかといえばいわゆる「里山」に多いようです。完全に都市化されてしまうのは嫌だけれども、ある程度は人の手が入っていた方がよいということでしょう。そしてコンクリートや廃材等を巧みに利用して営巣＝繁殖し、ネズミ（主にアカネズミ）、昆虫、カエル、ザリガニ等を食べます。メニューの数は



川の護岸壁を駆け上がるニホンイタチのファミリー

街のシベリアイタチに比べて多いですが、常にグルメをしているわけではありません。その場所での季節に最も多い餌を集中的に狙う傾向があるようで、たとえば東京＝多摩川での主食はネズミであり、大阪＝箕面での主食はザリガニと昆虫です。

食物が場所によって異なるように、繁殖習性も地域によって違う可能性があります。ただ少なくとも、大阪のニホンイタチとシベリアイタチはいずれも3～4月に交尾をして約1ヶ月後に出産し、夏の終りには子育てを終えるというパターンです。ニホンイタチでは子育てをするのは専らメスですが、シベリアイタチではオスも補助的役割を担っているのではないかとという説があります。ただし私自身はそれを確認していません。あるいはもしかするとそれは父親ではなくて来春の「婚約者」ではないかとも思いますが（鳥でそのような例があり）、確かなことはわかりません。今後の調査の結果待ちです。

寿命もやはりよくはわかっていませんが、いろいろな傍証から判断するに、どちらのイタチも精々3～4年と思われれます。はかない「人生」のようですが、出生から自立までの期間の短さ（半年未満）からすれば、まあそんなところでしょう。死因もよくわかりません。ただ、キツネやタカ等の大形肉食動物の捕食が主因であるとは、少なくとも大阪では考え難いです。主な死亡原因は、老化に伴う餓死ではないでしょうか？ イタチのように体が小さい動物は代謝が活発で、そのぶん老化が早いはずですが、加えてイタチは動物食ですから、動かない食物に頼る草食動物に比べて老化はより大きなダメージのはずです。

最後に活動時間について。イタチは実は夜行性ではありません。少なくとも多摩川のニホンイタチは完全昼行性であるという結果が、電波追跡法によって得られています。一方、シベリアイタチは昼夜兼行型であるという結果が、長崎



冬の川原で昼寝するニホンイタチ：オス (撮影：大島和男)

県で得られました。ただ、この違いはおそらく種差ではないでしょう。ニホンイタチも箕面では、昼も夜も動くからです。

このように繁殖習性以外は顕著な生態差が認め難い2種が、狭い日本で共存できるのは興味深い現象です。その要因については今後更なる解明が必要でしょう。

(わたなべ しげき)

# コアラの体重測定

## §はじめに

コアラは、非常に動きの少ない動物です。1日のうち14～15時間位は寝ていて、ユーカリを食べる時間は2～3時間程度であり、わずかな行動のなかから健康状態を知るには困難な面があります。また、ユーカリの採食量を正確に把握することも困難なことです。飼育管理の上で、ビデオカメラによる24時間の観察と毎週1回の体重測定で、動静を知ることが重要となってきます。今回は1989年6月から1994年5月までの約5年間の体重測定結果から得られたことをお話しします。



## § 現在および過去に飼育した個体 (1994年5月現在)

個体	誕生日	入園時年齢	現在年齢	死亡日
メル	*87.1.31	2歳4か月	7歳4か月	
テラ	*86.12.11	2歳6か月		93.7.3
ララ	*87.9.24	1歳8か月		93.3.3
ハク	*88.1.27	2歳3か月	6歳4か月	
ハナ	*88.2.29	2歳2か月	6歳3か月	
ミドリ	*88.3.28	2歳1か月	6歳2か月	
ミク	91.7.26		2歳10か月	
クミ	92.9.25		1歳8か月	
コウ	*84.4.	10歳2か月	10歳2か月	

\*は推定

現在、“メル”“ハク”“コウ”のオス3頭と“キリ”“ミドリ”“クミ”のメス3頭の合計6頭のコアラを飼育しています。“コウ”は1994年6月に当園生まれの“ミク”と交換でブリーディンググローンで淡路ファームパークからやってきた個体です。

## § 測定方法

“コウ”はまだ当園の環境に慣れておらず“コウ”を除く5頭の体を毎週休園日に測定しています。

我々が測定木とよんでいる短かい止まり木(長さ1m50cm位、直径10cm前後の木)をコアラの横に持っていき、前足を木にかけた時、尻を押し上げ測定木に乗り移らせます。測定木は動かないようにしっかり持っていない



いと、少しでも動かすとコアラは乗るのを嫌がります。横木を移動している場合は、進行方向の前方に測定木を立て、上に登らせるようにします。“ハク”の場合は、この方法はいやがります。そこで、止まり木から下方に押し下げ、止まり木に測定木を立てかけ乗り移らせるようにします。この測定木を利用する方法は、体重測定のほか屋外放飼場へコアラを移動させる時にも利用しています。慣れればコアラにストレスを与えずスムーズに行える良い方法と思われる。以上のようにして測定木に乗せたコアラを人間が持ちハカリ上に人といっしょに乗り移ります。測定後、測定木と人間だけで測り、差引いてコアラの体重を算出します。

## § 季節的な変化

亜成獣から成獣については、グラフ①のとおりです。3月頃から8月の終りごろまで体重の減少がみられ、9月になって増加し、1月2月頃に最も体重が増加します。この傾向は、毎年見られます。採食量の増減についても同じことがいえます。すなわち春先より採食量が減少し、秋より冬季に多くユーカリを食べる傾向があります。また、オスによくみられることですが、春から夏にかけて軟便をよく排出することもあります。しかしこれが体重の増減となんらかの関係があるかどうかはわかっていません。今後のデータ集積による研究調査によって関連性がわかるかも知れません。

## § 幼獣の変化

繁殖例がオスの“ミク”とメスの“クミ”2頭だけなのでデータ不足の感がありますが結果はグラフ②のとおりです。オスの“ミク”の場合1歳4ヶ月頃まで多い週で200g位の増加がみとめられます。メスの“クミ”では、180g位の増加がみられ、成長曲線的には1歳すぎまでは、オス、メスの差異はみられませんが、その後は、オスの方が体重増加は大きくメスとの差がはっきりと出てきます。2歳半頃からオス、メス共も季節変化が顕著に現れるようになります。

## § 成獣の変化

オスの個体については、現時点で“メル”では7歳で最高値を示し、ハクは6歳でピークに達しています。このことからオスのコアラについては6歳から7歳頃まで体重の増加は続くものと思われる。しかし現在最高齢の“メル”が7歳10ヶ月、そして“ハク”が6歳9ヶ月なので、これから体重増加があるのか、今後の測定結果を見ないとわかりません。

## § 発情による変化

発情したメスの行動は活発になり、落ち着きがなくなります。止まり木から止まり木に移動したり、地面に降り歩きまわったりする回数が多くなります。オスでは、昼夜を通じ頻繁に鳴くようになります。これらは発情行動です。動作が活発になることでエネルギーの消費量が増し、若干の体重減少は見受けられますが、発情中でも体重が増加する場合もあります。他園の例ではメスは発情時に体重が著しく減少するので、発情周期が的確にわかるといわれていますが、当園で飼育中の3頭のメスについては、体重測定によって発情周期を推定するのは難しいと思われます。

## § 繁殖による変化

交尾、妊娠、出産までの体重の変動はみられませんが、育児のうのふくらみが確認できた頃、すなわち出産後4ヶ月頃より、わずかな減少が見られることもあります。袋の中の仔の成長に比例

し順調に増加していきます。育児のうより出てくる時間が長くなり、親から離れることが多くなる頃から、幼児の体重測定を行います。“ミク”と“クミ”では出生後約1年前後より測定を開始しました。



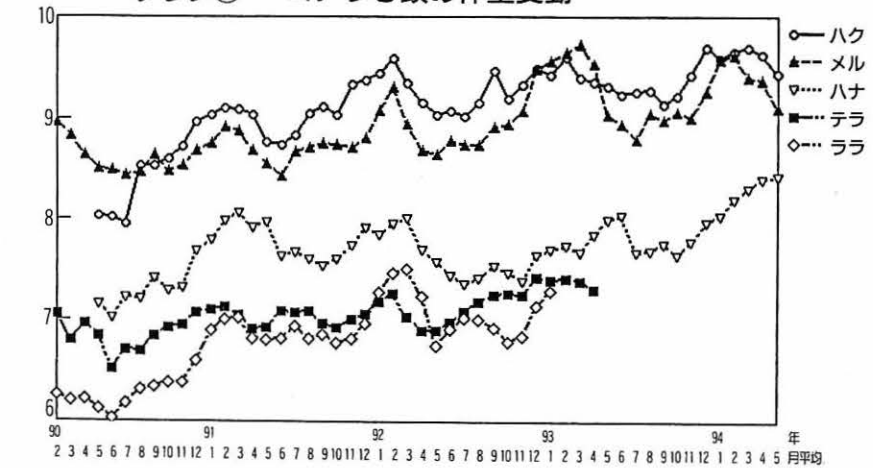
## § おわりに

約5年間の飼育期間、そして出産例も2頭という少ないデータの解析であり、今後、ユーカリの季節的成分の変化による体重変動、排便量や便の状態による変動、これらのことが体重の増減になんらかの関係があるのか、これからの課題の1つです。

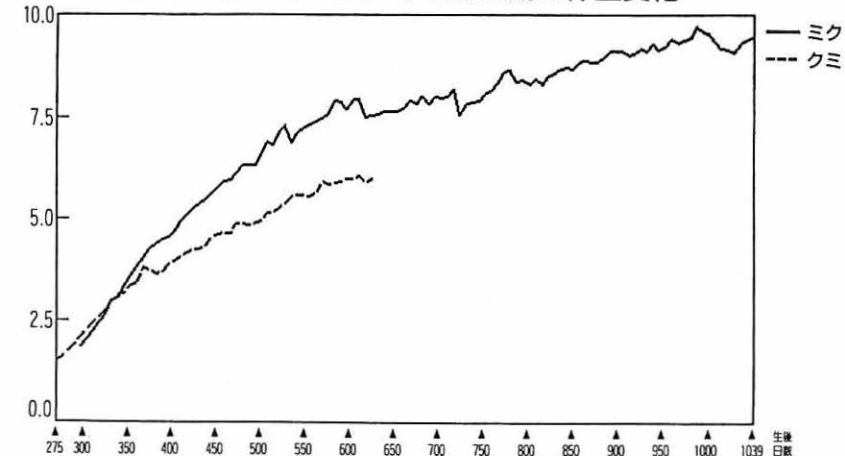
体重測定の記録は、飼育係や獣医師にとって飼育管理上重要なことの一つであり、これからのデータの集積により、多くのことが解明され健康管理に役立つことと思います。

(飼育課：野口 秀高)

体重(kg) グラフ① コアラ5頭の体重変動



体重(kg) グラフ② “ミク”と“クミ”の成長期の体重変化





# グラフZOO

## 秋の動物と花のフェスティバル

10月16日から11月6日までの日曜・祝日に動物園内の野外ステージや慶沢園、公園などで催しが繰り広げられました。ボランティアの皆さんのスポットガイドは期間中以外の日曜日にも行われています。  
(写真・構成：編集部)

公園の入り口でも、ぬいぐるみたちが、おでむかえ。



野外  
ステージ

### 動物君こんにちは！

飼育係のお兄さんが、担当動物の餌などをみせて、その動物を子供たちにあててもらいます。とっても、人気のあるコーナーになりました。



### ボランティアのクイズ、ゲーム

赤組、白組に分かれて、動物のブロックの組み立て競争。楽しそうですね。ボランティアの皆さんの力作です。



慶沢園の  
ガイドです。

### スポット ガイド

キジの足はどれかな？  
楽しいクイズに子供たちが活発に手をあげています。  
ボランティアの皆さんによるスポットガイドはキジ舎の他、ペンギン舎とフラミンゴ舎でも行いました。



大阪市内有数の庭園ですが、なかなか紹介する機会がありません。初めての催しでしたが、たくさん参加されました。



# 動物 なんでも 相談室

天王寺のゾウにはキバの见えないものがありますが、このゾウはキバがないのですか？  
摂津市 長山 節子

一般にアフリカゾウでは、オス、メスとも大きなキバをもっていますが、アジアゾウでは、オスに比べるとメスのキバは小さく、ときには全く生えないものもあります。当園にはアジアゾウのメスが3頭います。“春子”はキバが比較的長いので、外から見えますが、“ラニー博子”のキバは短いので口を開けないとなかなか分かりません。“ユリ子”にいたってはキバの生える位置に穴はあるものの全く生えていません。

また、動物園では、コンクリートや鉄柵ででき



た動物舎で飼育しているせいか、壁や鉄柱にキバをぶつけて折ってしまうことがたまにあります。そんなわけで、短いキバがさらに見えにくくなるというわけです。

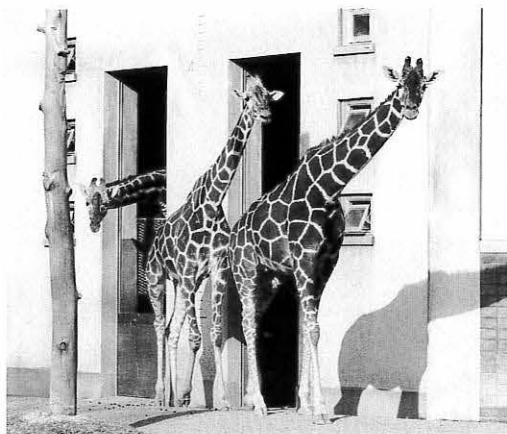
ところで、アジアゾウのオスでは、キバ1本で大きいものだと200kgもあるそうです。敵から身を守るための武器として、また食物の木の根をほりだすスコップのような役目をする道具として、ゾウにとってはたいへん重要な役割をします。

最後に申し添えておきますが、ゾウのキバは、イヌやネコ、セイウチなどのキバのように犬歯ではなく、上あごの門歯で、折れてもどんでん生えてくるのが特徴です。

(飼育課：森本 委利)

キリンの首を見ていると、首の根元からふくらみができて、頭の方へ上がっていくものを見ました。あれは何なんですか。  
枚方市 上山 美由紀

ご承知かもしれませんがキリンは、牛のように胃が4つに分かれ、かみもどしをする反芻動物です。反芻動物では、食べ物は口で簡単にかみ砕き、飲み込んだ食べ物は、まず第一胃に入ります。ここには、たくさんのバクテリアがいて、食物に働き、食べ物の一部を消化しています。ここで食べ物が一定の作用を受け、第二胃で引き続きその作用が行われ、それによって柔らかな塊状となりま



す。それはまた口に戻されて、臼歯で気長にかみ砕かれます。その後、食物は第三胃と第四胃に送られ、動物に必要な栄養分を吸収できるように、完全に分解されるというわけです。

胃から再び食道を通過して口にもどってくるところを見られたのでしょうか。じっくり観察していると、食物を飲み込む場合には、これとは逆の現象がおこっていることを見ることができます。

キリンの首は長いので、他の動物にくらべて、飲み下す時と、胃から口へもどってくる時の、食道を通る食物の動きがよく分かるわけです。この上下する食物塊の動きはかなり早く、まるでエレベーターが上下するかのように見え、見ているとかなりおもしろいものです。もちろん、食道内を食物が上下する方向は、一方向のみで、上にいくのと下にいくのが同時にみられることは絶対にありません。

(飼育課：森本 委利)

10/2. キジバトを1羽保護しました。

10月3日 グラントシマウマの“トモ”がメスの赤ちゃんを出産しました。これで当園のグラントシマウマはオス1頭、メス3頭になりました。



10/4. 8月13日に生まれ、人工哺育で育てているフクロテナガザルの赤ちゃんの目がよく見えるようになってきました。

アカハシコガモ6羽が動物交換で、豊橋総合動植物公園から入園しました。当園からは今年ふ化したオシドリ6羽を送りました。

10/5. センダイムシクイとフクロウを1羽ずつ保護しました。

10/6. アカカンガルーのメス1頭が、動物交換で神戸市立王子動物園から来園しました。当園からはシュバシコウを1羽送りしました。

10/8. 保護で持込まれたアオバズクなど6種20羽の鳥たちが元気になったので自然復帰させました。

10月9日 「春の動物と花のフェスティバル '94」の一環として募集した写真コンクールの入賞者の表彰式を行いました。236点の応募作品の中から動物園部門で大阪市長賞に選ばれた阿倍野区の谷邦三さん(65)の「ハイハイ、ベビー」(写真)他、18点の入賞作品と公園部門の入選作品19点とあわせて、表彰しました。



10月11日 オランウータンのメス“サツキ”を麻酔して、定期健康診断を実施しました。

10月12日 10月6日に入園したアカカンガルーを展示しました。



キビタキを1羽保護しました。検査の結果、異常はありませんでした。涼くなってきたのでコアラの屋外に展示しました。

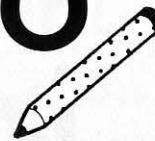
10月12日 10月6日に入園したアカカンガルーを展示しました。キビタキを1羽保護しました。



10/13. カニクイザルが1頭生まれました。10/15. オオコノハズクを1羽保護しました。

今月もおもしろ情報満載

# ZOO DIARY



10/16. 動物園のおじさんのお話で、森本主査が「動物園の食事」と題して動物の餌のお話をしました。

10/17. 気温が低くなってきたので、夏の間、日光浴のため、カモシカ園で展示していたアルダブラゾウガメとヒョウモンガメを爬虫類舎に移しました。

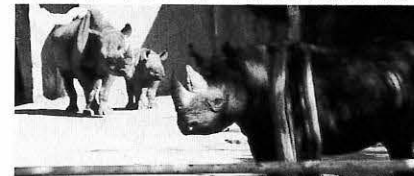
10/18. コノハズクを1羽保護しました。

10/19. キジバト、ヤマシギを1羽ずつとイシガメを1頭保護しました。ブタオザルが1頭生まれました。

10/22. 大阪動物園ボランティアーズの入会希望者対象の第1回目の研修を実施しました。

10/23. カケスを1羽保護しました。

10月24日 クロサイの仔“サトミ”がかなり大きくなったので、母仔と父親の同居を



試みました。今回の同居では、母親の“サッチャン”が警戒して父親を寄せ付けませんでしたので同居は短時間で終了しましたが、今後何回か同居を試み、3頭で展示する予定です。

昨年9月に生まれたアムールトラ2頭を、白浜のアドベンチャーワールドに贈りました。

10/25. モモイロペリカンが、強風にあおられて飛ぶのを防ぐため、翼の羽を切りました。

10/29. オオミズナギドリを1羽保護しました。

### ■お知らせ■

- しめなわ飾り 平成6年12月下旬
- 休園日 月曜日(休日にあたる場合は翌日) 年末年始(12月29、30、31、1月1日)
- お正月行事 1月2日、3日 午後1時~ 動物映画会 於：レクチャールーム 1月3日 もちつき大会 於：デッキ下

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修  
B5変型判・オールカラー  
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間はず？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価680円

### むしくらしか いかた

野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきもの くらしか いかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

## 新・きれいな色 FUJICOLOR SUPER G ACE 400

新・きれいな色



カワラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

# 動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する  
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家  
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

<研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載>

会費/年1,500円(切手72円・呈既刊号目次)

## 動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用「楽しい天王寺動物園」  
ビデオ

19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

## 天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……



オールカラー

500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

## マスターのポップコーン

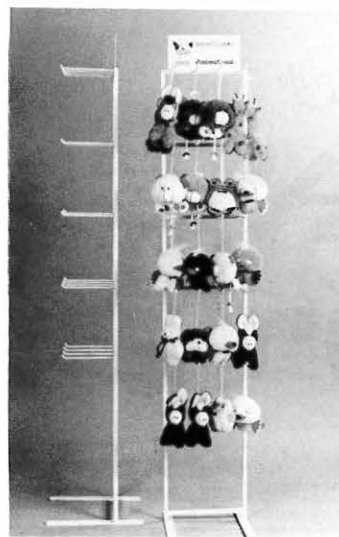


<営業品目> 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06)865-0165





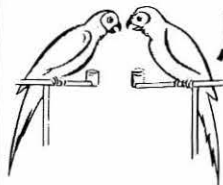


# 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

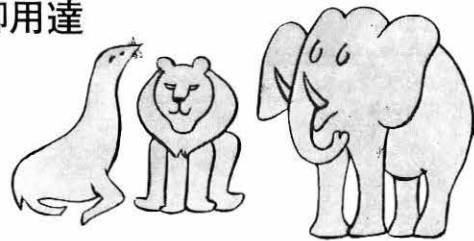
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL: (06)704-8580  
FAX: (06)704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

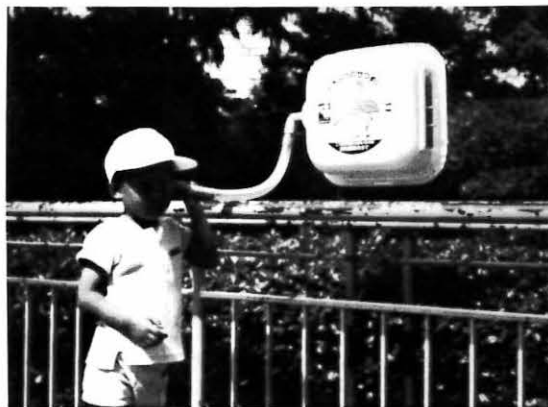


## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

## たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

### 動物園内での お食事、 ご休憩は

動物園内.....

## 中央売店

TEL 06-771-0973



### お食事・飲み物・おみやげ

動物園内

## 南園売店 TEL 06-771-7110



## 思いやり、ほんの少し、コアラのために。



応援してね!



多くの思いやりが、ひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援します。

多くの人に支えられて育ってきたコアラのマーチ。

一方、コアラのふるさとオーストラリアでは、シドニー近郊の山火事などにより、コアラたちの安住の地が年々少なくなってきています。

そこで、ロッテでは、コアラのマーチ誕生10年を記念するキャンペーンを実施するとともに、

コアラを取りまく環境を守ろうと、オーストラリア・コアラ基金(1986年設立)のゴールドスポンサーになりました。

コアラのマーチを支えてくれる皆様の思いやりがひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援いたします。

## LOTTE





Our yogurt has fruity  
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と  
覚えてね。



ほりたてミルクのおいしさが、生きている。

雪印  
**オガール**

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HIJIRI-KOJIMA

一日  
愉快地  
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ

1994年12月10日発行(毎月10日発行)第30巻 第12号(通巻352号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 00930-2-37823

編集委員

(中山良三郎/岩倉善樹/増野悦敏/樽本 勲/中川哲男/山根和弘/吉本昌俊/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭)  
森本委利/中上正幸/堀内智生/小林崇宏/竹田正人/大野尊信/野口秀高/早川 篤/土谷正道/村上勇一/仁田原洋)